

渋沢栄一と「論語」

・・・渋沢とフランス資本主義・・・

2024年3月25日

中国学研究者 長島 猛人

【一】「論語」について

イ、成立、日本への移入と普及、利用

ロ、漢文とはどういうものか

ハ、日本の時代による対応

ニ、神道、仏教、武士道との対応

【二】渋沢の生い立ちと激動の青年期

【三】パリは渋沢に何を教えたか

イ、文明とはこういうものであったか

ロ、経済の方法と人の利用

ハ、国家より個人

ニ、日本の手工芸の評価

ホ、「堂々たる日本人」

【四】渋沢の「論語」利用

【五】渋沢栄一の時代と身分

- ・福沢諭吉 1871年渡欧 武士
- ・森鷗外 1883年渡独 武士
- ・夏目漱石 1901年渡英 町人

【一】「論語」について

イ、成立、日本への移入と普及、利用

- ・2500年前、中国の孔子の言葉をメモ的に集め、死後数百年で成立
- ・礼、孝、忠、仁、義という規範、ルールで統治しようとする考え
- ・「論語」の考えを儒家と呼び、他に法家、道家、墨家などがある
- ・日本へは古事記によると応神、仁徳天皇の時に百済から入る
- ・江戸時代に普及（武士は武士道、庶民は教訓、道徳）
- ・江戸時代の学問とは「儒教」のことで日本人の基礎的な教養

ロ、漢文とはどういうものか

- ・文字は全て漢字で文法は中国古典文法
- ・現代と同じ文字を使用しているが熟語の概念が乏しいので一文字が一文の機能を持つ
- ・句読点がないためリズム、前後の意味、引用で解釈して行く
- ・日本では訓読法が藤原定家までに確立、読み方は流派でいろいろ異なる
- ・漢文素読とは訓読を声に出して読むことをいう
- ・意味が分からなくても読み込み、年齢と経験によって使えるようになる
- ・訓読されていたものを会話で使うときは自然と二字や四字の熟語になるので音読になる
- ・会話や文章で音読熟語の混ざっているものを格調高い文章、演説と言われる

ハ、日本の時代による対応

- ①政治の書・・・仁徳天皇、聖徳太子「十七条憲法」 4, 5世紀
- ②教養の書・・・貴族、遣唐使の文、吉田兼好 14世紀まで
- ③兵法の書・・・中世武士団 16世紀まで
- ④道徳の書・・・江戸時代の朱子学 17, 18, 19, 20世紀前半まで
- ⑤経済、受験の書・・・渋沢らが利用 19世紀の後半から現代まで
- ⑥経営の書・・・民間のトップが愛読 現代

ニ、神道、仏教、武士道との対応

- ・「神道」「仏教」などと親和性がある

【二】 渋沢の生い立ちと激動の青年期・・・帰国まで

- 1, 1840年深谷血洗島で生まれた（水野忠邦の天保の改革のさなか）
- 2, 稲作ではなく藍と生糸の富農の長男
- 3, 深谷の地勢は当時は交通の要衝で、八王子、秩父、水戸、京都に便利。水運は荒川も利根川も利用できた
- 4, 尾高惇忠に「論語」（陽明学）水戸学尊皇攘夷論を学び高崎城襲撃などテロリスト、武士道原理主義の思想を身につける
- 5, 1853年ペリー来航（ロシアのラクスマンはすでに1792年根室来航）
- 6, 江戸を避け武家の弱い京都へ、平岡円四郎と出会い、一橋家と関係を持つ
- 7, 地元深谷での事件を避けるため一橋家徳川慶喜に仕え、倒幕から幕府の側へ変節する。その後経理の手腕を買われる 資料①
- 8, 慶喜が徳川宗家15代将軍へ。パリから万国博覧会の招請状が届く。招請状は薩摩にも来ているので幕府は参加せざるを得ない
- 9, 慶喜は渋沢の行動力、経理能力を買って万博随行人に抜擢する
- 10, 渋沢の役は名代徳川昭武の養育係、マネジメント係、さらに政府（徳川慶喜）の密命を帯びる
- 11, 1867年（慶応3）1月横浜から出発
- 12, 一ヶ月の船旅。上海、台湾、ボンベイ、紅海、スエズ地峡河通過。 資料②③
イタリア、プリンジイシイから陸路パリへ。（運河は1869年開通）
- 13, パリは物価が高く出費が高み、随行人にアパート暮らしをさせる
- 14, 約半年の万博期間を終え、日本がグランプリを獲得
- 15, 7月パリを去りベルギー、オランダ、スイス、イタリア、イギリスを周遊。ベルギー国王が日本に鉄鉱石輸出を要請され驚く
- 16, 10月大政奉還。その報が翌1868年（慶応4）正月パリに届く
- 17, 徳川家からの送金が途絶え、徳川昭武の帰国が危険と判断。他の随行人は次々に帰国
- 18, 渋沢はヨーロッパで銀行債券、鉄道債券などの利殖によって徳川昭武を養い、留学させることを決心
- 19, 渋沢帰国に際し、万博の荷物の処理を当時の貴族ではなく、ヨーロッパ各国の美術館に売りさばく。その後パリ万博の出品物によりジャポニズム運動が始まった（現在英、仏、スイスの各美術館で万博出品物が続々発見されている。）
- 20, 1868年明治元11月3日帰国・・・約二年間の海外駐在と同じ

【三】 パリは渋沢に何を教えたか

イ、文明とはこういうものであったか

- ①道路がまっすぐで舗装してある
- ②噴水は多いがわき水井戸がない
- ③車道と歩道が別れていて、女性と男性が腕を組んで歩いている。
- ④交通機関に馬車を使う。しかも車輪の音がしない。
- ⑤時計を持っていて馬車も店も時間で動く。
- ⑥チップを取られる。酔っ払いが多い。
- ⑦対面交通で建物が高く、石像が多い。並木がどこでもある。

ロ、経済の方法と人の利用

- ①スエズ運河工事が国家事業ではなくレセップス株式会社を知る
- ②国家予算より民間投資の方が大規模工事と制約の点で効率が良い
- ③貧困層に仕事を与えることが社会の成長であることが分かる
- ④救貧は魚を与える。防貧は魚の釣り方を与える。養育院の発想
- ⑤資本主義（合本主義）とはお金だけではなく人も資本である
 - ・スエズ運河その他各地で見た人の数。日本の河川工事と比較
 - ・人足寄せ場や小石川養生所は救済ではなく社会貢献
 - ・「養育院」は貧民対策といわれているが人的資源のストック
- ⑥善意だけでは長続きはしない。江戸時代の「お救い小屋」は食べさせるためだけではいけない。（仁義道徳と生産利殖の結合）
- ⑦銀行というものの存在。
 - ・日本はもともとのお金持ちが金を貸す（江戸時代の両替商、札差）。
 - ・資金はお金持ちでもない民間人の投資からも集められる
 - ・お金が増える。銀行からお金がもらえる。約束は守ってくれる。
 - ・投資と寄付の考え（お金は貯める、使うだけではなく回す）
- ⑧支配階級が商売を語る（武士は、商業は賤しいものとしたがベルギーでレオポルド2世が昭武に鉄鋼をの 프로모ーションをする）
- ⑨ビジネスチャンスを得る。（当時フランスリヨンの蚕が病気で全滅、日本の生糸を独占的に売り込む。帰国後、富岡に製糸工場を作り、尾高惇忠が工場長にする
- ⑩鹿鳴館でチャリティーを始める。ヨーロッパでは宗教、日本は同情と見栄の文化。
 - ・けちくさいものは出せない・お付き合い・分相応
- ⑪利益優先より持続可能（サスティナビリティ）は「論語」の考え

ハ、国家より個人

- ・武士は国家の延長で倫理観に縛られる
- ・国家の成長は個人の成長と個人の倫理観を共有させる（「論語」の倫理観「民信なくんば立たず」「信なれば則ち人任ず」）

ニ、日本の手工芸品の評価（薩摩も含む）

- ・養蚕 ・漆器 ・陶器（薩摩焼き）・鎧 ・ホラ貝 ・絵巻物
- ・蒔絵 ・丸太細工 ・木工製品（寄せ木細工） ・昆虫標本
- ・ガラス製品（薩摩切り子）・勲章（薩摩琉球国）・茶屋の女性（日本女性初めての渡欧） ・屏風 ・和紙 ・縮画（絵はがき）

ホ、「堂々たる日本人」

- ・言葉が通じない、背が低い、ことに対しての軽蔑、差別にどう立ち向かったか
- ・武士は人望と威望を目指したため萎縮しなかった
「君子は威有りて猛からず」「君子は重からざれば威あらず」

【四】 渋沢に影響した「論語」の言葉

- 1, 渋沢が尾高惇忠から学んだ「論語」は陽明学。
知行合一、実践重視
- 2, 物事の完結はそれ以上にならない。流動する物が好み。
「楽水」の扁額、「仁者は山を楽み、知者は水を楽む」
- 3, 形がなければ中味は生きない。
フランスで鬚を切る
- 4, 考えは文字に残さず、語ること。
本は書かない、講演は行う、「論語と算盤」は口述筆記
- 5, 清濁併せのむ。貧愚は問わず。仕事は分業。全体は見せない。
養育院、武士、農民、商人とつきあう
- 6, 一人で何でも出来る人を雇わず、過失と中庸で可能性と幅を持つ。
平岡円四郎は何でも出来たから殺された
- 7, 去る者は追わず、来たるものは拒まず。
討幕派の志士はすぐ集まるがすぐいなくなる
- 8, 道徳は教養を伴わないと悪徳、迷惑になる。
井伊、平岡暗殺の水戸浪士は偏った道徳を持っていた
- 9, うまくいっているものはいじくるな。

徳川慶喜の方針

- 10, 待つという価値観を持つ。出来ないという人はやらない人。
高崎城襲撃、一橋家の人材集め
- 11, 二枚舌は集団の中では不可欠。利の追及は落としどころを探る。
変節をしながら生き抜く。
- 12, 平等にこだわるより分相応の方が国力は上がる。
有能な人を集め、農民をやりたい人は故郷へ帰す
- 13, 見えないところでの実践を奨励し、理屈をこねるより先ず動け。
渋沢は平岡の実行力を学ぶ
- 14, 政策、思想、学問は人がいなければ意味を成さない。
陽明学の中心主題
- 15, 有能な人は外国人でも使う。
薩長は中央政府を握っても他藩の人や幕臣、農民も使った
- 16, 世に出なくてはならない。
倒幕から変節して幕臣になり、中央政府に入り、民間に出る
- 17, 【徳川昭武への教育方針】

- イ、一人でいられる。その方が影響力を使える
- ロ、賢い人に育てるには分からないことを教える
- ハ、徳の高い人、上に立つ人は孤立する覚悟を持つ
- ニ、人は40歳までに仕上げる

【五】 渋沢栄一の時代と身分

- ・福沢諭吉 1871年渡欧 武士
- ・森鷗外 1883年渡独 武士
- ・夏目漱石 1901年渡米 町人

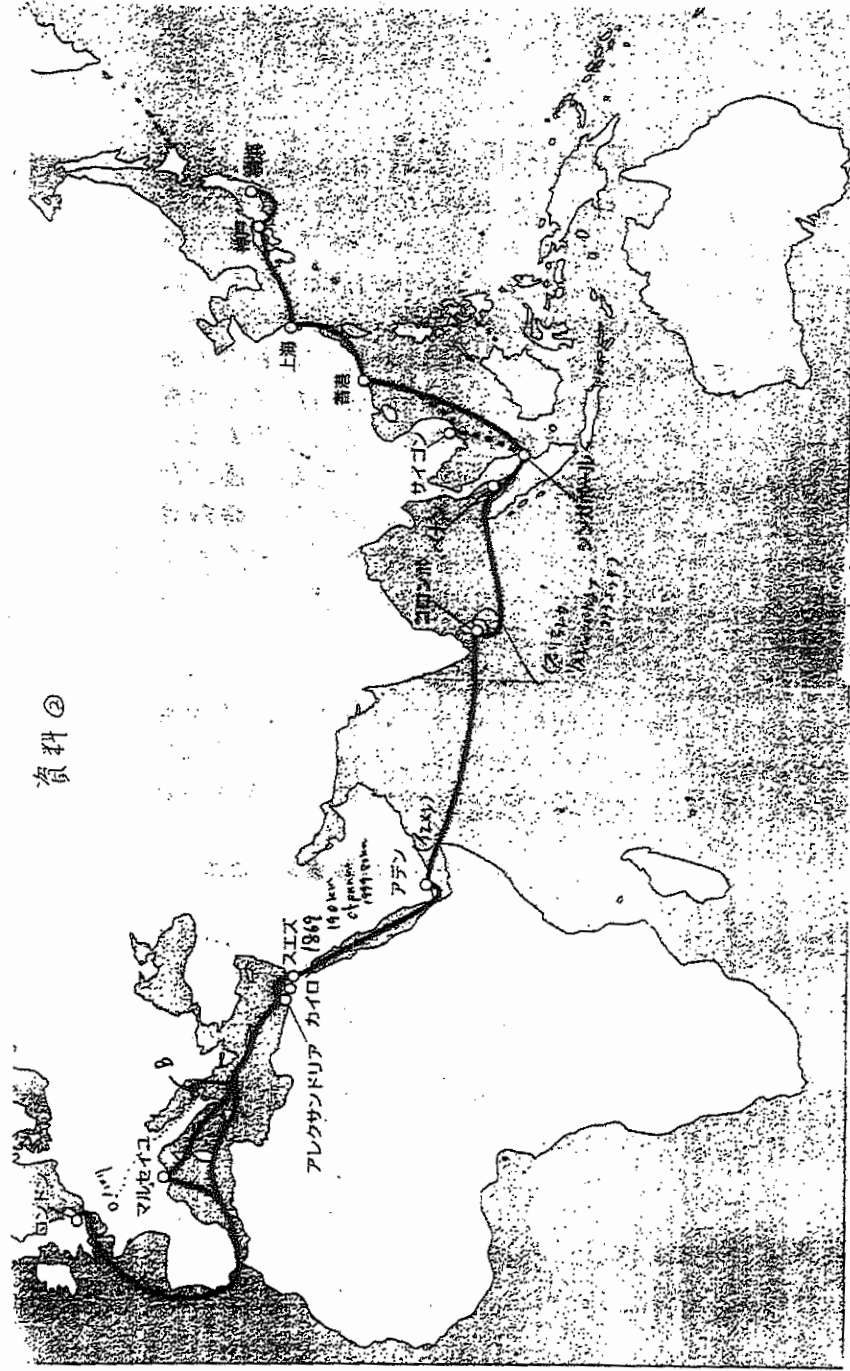
- ・伊能忠敬 1745年 町人
- ・大黒屋光太夫 1751年 町人
- ・間宮林蔵 1775年 武士
- ・二宮尊徳 1787年 農民
- ・北里柴三郎 1853年 庄屋

平岡円四郎

是まで申述べたうちにもある如く、私を一橋家に推薦して慶喜公に御仕へ申すやうにして呉れた人は平岡円四郎であるが、この人は全く以て一を聞いて十を知るといふ質で、客が来ると其顔色を見た丈けでも早や、何の用事で来たのか、チヤンと察するほどのものであつた。然し、斯る性質の人は、余りに前途が見え過ぎて、兎角他人のさき回りばかりを為すことになるから、自然、他人に嫌はれ、往々にして非業の最期を遂げたりなぞ致すものである。平岡が水戸浪士の為に暗殺せられてしまうやうになつたのも、一を聞いて十を知る能力のあるにまかせ、余りに他人のさき廻りばかりした結果では無からうかと思ふ。

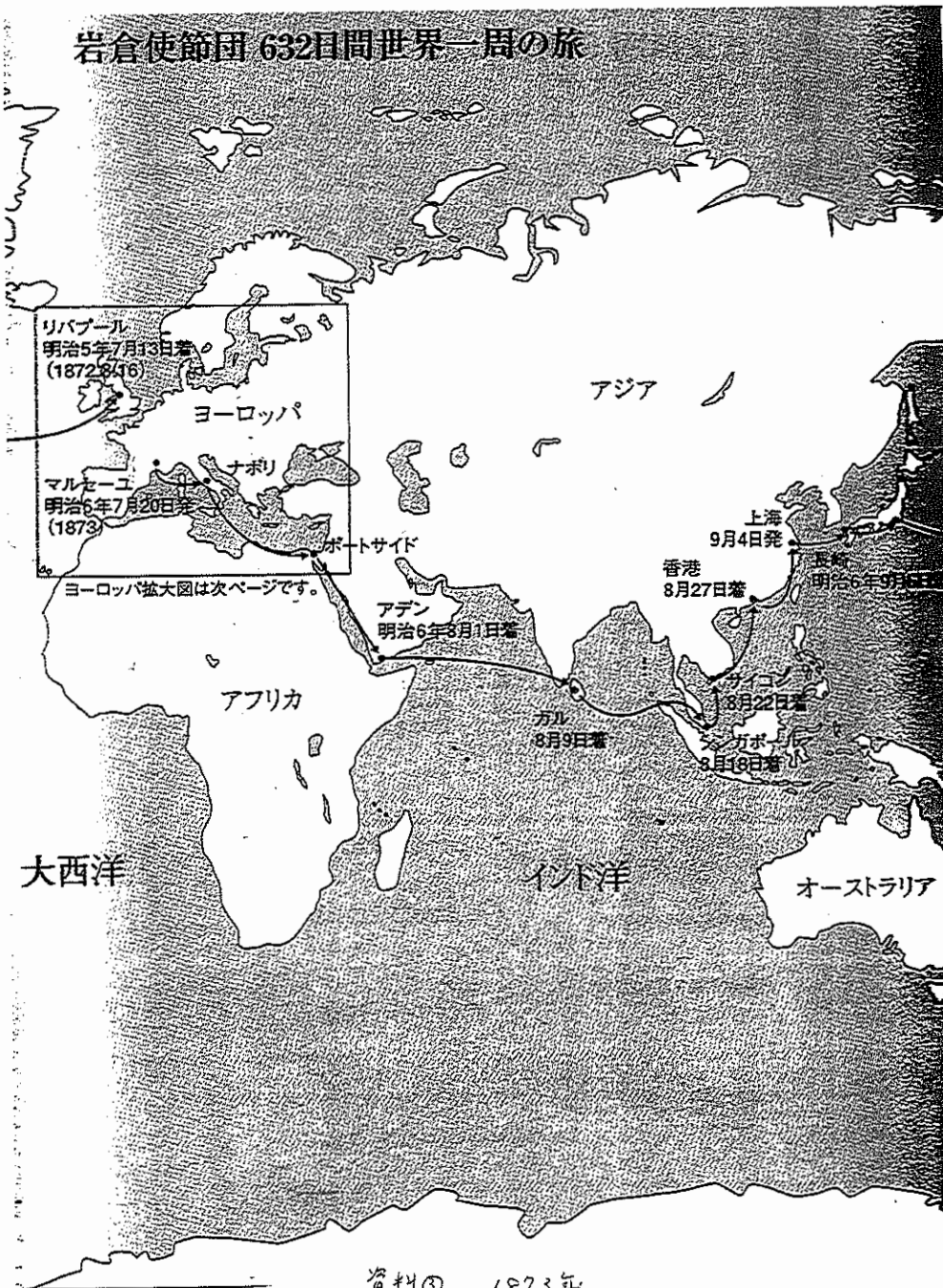
平岡円四郎の外に、私の知つてる人々のうちでは、藤田東湖の子の藤田小四郎といふのが一を聞いて十を知るとは斯る人のことであらうかと、私をして思はしめたほどに、他人に問はれぬうちから前途へ前途へと話を運んでゆく人であつた。

洪沢栄一「実験論語処世談」



幕末の欧州航路 1867年

岩倉使節団 632日間世界一周の旅



資料① 1873年